

水稻馬鹿苗病の 多発原因と対策

今年馬鹿苗病（ビランボ）の発生が多く、現在でも本田でかなりの感染株が見られます。

多発の原因について普及所などで調査中ですが、今までに明らかになった問題は次の三点です。

第一に、今年の三月の気温が低く、ペンレートT浸漬時の水温が低く防除効果が劣ったことがあげられます。種子消毒十五度の水温を保つことが大切で、水温が低いほど効果は低下します。ところが実態を調べてみると、三月上旬の寒いころに消毒のおけを庭先など外に置いたままであった事例が多く、水温はかなり低かったことが推定され、このことによる防除効果の低下が多発の第一の原因と思われる。

第二に、ペンレートT水和剤の溶かし方が悪いことです。ペンレートTは親への付着性を高めるために、他の薬とは異なりわざわざ水に溶けにくく製剤されており、

必ず少量の水で練ってから溶かさなければなりません。ところが実際には、そのままおけに入れ、ほうきなどでかき混ぜる例が多く、これでは十分に溶けていないと思われる。

第三に、保菌親が増加していることが推定されます。馬鹿苗病に感染した稲は田植え後、大半が枯死しますが、一部は生き残り出穂期になって徒長し枯死します。そして枯れた株の表面に白い粉のような胞子ができ、その胞子が他の

健康株の開花親に侵入し、馬鹿苗病が広範囲に伝染します。ここ数年、馬鹿苗病の発生が多いため、新潟早生やアキヒカリの枯死株が多くなり、このために前に比べ開花時に感染する親が多く、防除効果が少なくなっています。

この他にもいろいろ原因が推定され現在、調査研究中ですが、今の時点で大切なことは、来年の感染源となる発病株を稲の開花までに少しでも取り除くことです。市内には採種圃もあり、また自家採種も多く、周辺に迷或をかけるために六月下旬ごろの出穂前に、他の株より高く抜き出でてやがて枯死する馬鹿

苗病の株は、見つけしだい開花までに除去してください。
【南国農業改良普及所】

南国歌壇

単語なれ言葉すくなき園児なれ
我にだきつきほほすりよせん

下野田 北村優美子
山渡る日癖の雨を気づかいつ
取り遅れたる茶を摘み急ぐ
西山 岩貞健一郎
赤紫にほへるつつじのひともとを
おし隠したる葉さくらの蔭

大埔 中田憲秀

荒軒のひげ目感じし我が郷も
並ぶ庭木に潤む老いの眠

後免町 徳久まきみ
君植えて花見ず逝きし石榴花の
見せばやと思ふ初咲きの花
立田 池田小村
万物に勝る息子のブレゼント
声便り聴く母の日の朝

篠原 小松延江

南国柳壇

扉裏うらの落書きも読む一人旅
植田 吉本其梅

稲生 西川照子
中流の意識年金くればこそ
西山 竹村寿賀
七十年昔なつかし子供の日
十市 沢村鶴一

南国俳壇

日直やラジオが流す春の歌
空こぼす色の明るき犬ふぐり

岩崎佳江 ()
沢本吉子 ()
池 さち 岩村句会 ()
大島新草 ()
西本かよ ()
佐竹悦美 (おがたま会) ()
中澤道子 ()
門田郁子 ()

おばあちゃん じゃまにしている 父なのに
親の言うこと 守れ守れと



(市教育委員会発行の「子どもの目」から)